

東京医学会

東京医学会 第 2821 回集会

日時：令和 5 年 3 月 16 日(木) 13:30~15:00

場所：医学部教育研究棟 13F 第 6 セミナー室

演者：津川 友介

(所属) カルフォルニア大学ロサンゼルス校医学部・公衆衛生大学院 准教授

演題：医師の特性が医療の質および医療費に与える影響の検証

紹介：① 高騰する医療費と②不十分な医療の質は、米国の医療における二大最重要課題であると言っても過言ではない。日本同様、米国においても医療介護費の適正化は喫緊の課題であるにもかかわらず、その原因および解決策に関するエビデンスは依然限られている。過去 50 年間にわたり、米国では医療の質および医療費の地域間格差に関する数多くの研究が、ダートマス大学の研究者たちを中心に行われてきた。しかし、医療に関して米国で最も権威のある学術機関である **Institute of Medicine** (米国医学研究所) が 2013 年に発表した報告書では、地域が医療における意思決定を行っているわけではないため、格差の研究は地域ではなく、意思決定者に注目すべきだと提言された。医師が医療の質・医療費に与える影響は大きいと考えられるにもかかわらず、その時点で医師間の医療の質・医療費のばらつきに関する研究は皆無であった。発表者は、医師のデータベースとレセプトデータを連結させることにより、はじめて医師間の医療費のばらつきが病院間のばらつきよりも大きいことを明らかにした。また医師の年齢、性別、卒前卒後教育などが患者の死亡率にどのような影響を与えるかの研究を数多く行い、**JAMA** を始め、これまで計 12 本の論文として成果を発表してきた。これらの研究は、医療の質・医療費における医師の診療パターンの与える影響の大きさを明らかにして、新しい研究分野の開拓につながった。今回の発表では、これらの研究から分かっているエビデンスに関して報告するとともに、同様の研究を日本で展開することの意義と課題について論じていただく。

主催：東京医学会

共催：保健社会行動学分野